

金沢駅西創生ビジョン

～ 北陸経済圏を代表する未来志向のまちづくり ～

平成 28 年 5 月

金沢駅西開発協議会

目 次

はじめに	p. 1
第 1 章 金沢駅西創生ビジョンの背景	p. 2
第 2 章 駅西地域全体の活性化のために	p. 3
● 時代の潮流		
● 駅西地域の特性と機能		
● 駅西地域の現況		
● 駅西地域の課題		
● 駅西地域の目指すべき方向性		
● まちづくりの基本方針 ～未来を見据えたまちづくり～		
● エリア別の方向性と方針		
第 3 章 金沢港の活性化のために	p. 12
● 金沢港の現状及び活性化に向けた 5 つの課題		
● 金沢港の活性化に向けた基本方針		
● 金沢港活性化ビジョンの概要		
● 金沢港活性化ビジョン “3本の矢構想”		
第 4 章 ビジョンの実現に向けて	p. 18
附 録 ビジョン策定にかかる委員会活動歴	p. 22
委員会名簿	p. 23

はじめに

現在、我が国は、二十年余りにわたるデフレ経済の状態から脱却する転換点にあります。アベノミクスの効果を地方や中小企業にまで行き渡らせ、持続的な経済成長を確実なものとしていかなければなりません。そのためには、国内需要の拡大のみならず外需の捕捉が不可欠であるとともに、企業の国内回帰や設備投資意欲の喚起、対外競争力の強化等を図っていく必要があります。

しかしながら、経済成長の隘路^{あいろ}を切り拓くには、少子高齢化という構造的な問題を抱えております。特に2008年をピークに人口減少局面に差しかかった我が国では、将来の経済にも大きな影を落とすことにつながる深刻な問題であります。持続可能な社会を維持していくためには、人口減少を克服し、多様な価値観を有する社会に対応する“まちづくり”が各地域に求められます。

その際に、まちづくりの基盤となるのがインフラ整備であります。その必要性は北陸新幹線開業によって強く実感されたところでありますが、地方創生を目指す金沢において駅西地域は、駅東地域とも異なった役割を担えるポテンシャルを秘めていることから、駅西地域のインフラ整備、機能整備が金沢の都市力を高める重要な方策であると考えております。

そこで、今回の提言をとりまとめるにあたっては、地方創生を念頭に北陸新幹線金沢開業による「新幹線時代」の到来、大規模災害の経験による防災・減災への備えなどを時代の大きな流れとして踏まえた上で、金沢駅から臨港地域までと金沢港及びその近隣地域をそれぞれ所管する「駅西都心軸活性化委員会」と「金沢港活性化委員会」を平成26年5月に設置し、2カ年にわたって調査・研究、議論を重ねて参りました。

駅西都心軸活性化委員会においては、金沢駅から国道8号までのエリアと県庁周辺エリア、金沢港周辺エリアの3つに区分し、通称50m道路隣接地域のみならずその周辺も含めた広い地域を対象とし、また、金沢港活性化委員会においては、駅西地域に位置する重要な都市基盤施設である金沢港とその近隣地域を対象としてビジョンをとりまとめました。

現在、石川県と金沢市においては地方創生に向けて地方版総合戦略を策定し、着実な実行を進めているところでありますが、私どもの今回の提言が駅西地域のみならず、金沢、石川の次代における「輝き」に資することを願うとともに、当協議会としてもその実現に向けて引き続き努力して参りたいと存じます。

平成28年5月

金沢駅西開発協議会
会長 北村 哲志

第1章 金沢駅西創生ビジョンの背景

◆ 「駅西ニューステージ構想」(平成16年12月)での提案

本構想は、金沢駅西開発協議会と(社)金沢港振興協会が協同し、下記の二つの観点から新都心形成に向けた新たな構想を提案したものである。

- ①都市機能集積 → 金沢駅西口周辺、金沢駅西合同庁舎周辺、石川県庁周辺、金沢港周辺の4ヶ所を拠点とした都市機能の集積などを提案
 - ②賑わい創出 → 拠点を結ぶ新しい交通システムの導入、イベントの開催、集客施設としてのポートビル整備などを提案
- *金沢駅西口は現在の金沢駅金沢港口

【都市機能集積の拠点エリア毎の整備方針】

拠点エリア	拠点整備の方針
金沢駅西口周辺 (現金沢港口)	少なくとも北陸圏の300万人を対象とした交流機能の集積
駅西合同庁舎周辺	広域機能の集積に加え、金沢市中央卸売市場を活かした広域流通機能や食文化機能の集積
石川県庁周辺	行政、経済、医療機能や高齢者用居住施設の集積
金沢港周辺	国内外を対象としたグローバル機能の集積

【賑わい創出の具体的提案】

- 大型集客施設 … 金沢港のポートビル整備(港湾機能の集約、貿易拠点の形成、多種多様な入居施設を検討)
- 魅力の創出 … 50m道路の新たな愛称、国内外の発信手段(PR用CMの放映、ロケ地化などの企画)
- ソフト戦略 … イベントの開催(既存のイベントを育て、かつ、新しいイベントを開催)
- 公共交通を中心とした街づくり … 4拠点を有機的につなぐ公共交通を完備(新交通システム導入を検討)

本構想の策定から10年が経過し、この間、時代背景や社会経済情勢に変化が生じていることから、こうした変化に対応した新しい駅西地域のまちづくりの構想が必要となっている。

◆ 新幹線時代におけるまちづくり

北陸新幹線の開業効果を最大限に引き出し維持していくためには、金沢の更なる魅力創出や二次交通の充実等を引き続き推進していく必要がある。

加えて、今後の大阪までの全線開通を見据え、新幹線時代におけるまちづくりを検討していく必要もあることから、駅西地域の特性(都市機能集積、港の立地、交通結節点など)を活かし、地方創生総合戦略に準じた金沢駅西地域版総合戦略を考えていくことが求められる。



第2章 ▶ 駅西地域全体の活性化のために

● 時代の潮流

◆ 急激な人口減少と地域的な偏在の加速

- ・晩婚化や婚姻率の低下により人口減少が急速に進展する一方で、人口の東京一極集中が是正されないことから、東京と地方との経済的な地域格差は今なお広がりを見せている。
- ・発生が懸念される首都圏直下型災害へのリスクに備えて、地方への人口の分散をはじめ、将来的な地域経済の担い手を確保するために定住・移住の受け皿整備などを含めたまちづくりが地方に求められている。



◆ 頻発する自然災害、インフラの老朽化への対応

- ・近年、全国各地で局地的な風水害や土砂災害等が発生し、激甚化の頻度も高まっていることから、地域の防災・減災対策を一層強化することが必要である。
- ・加えて、道路や橋梁、下水道等の社会インフラや公共施設の老朽化も加速しており、これらの改修にはストックマネジメント手法を踏まえた長寿命化の推進が求められている。

◆ 強い産業の確立

- ・グローバル化の進展に伴い、産業構造は生産拠点の海外移転やエリア、業種の横断的な再編・整理等が進み、産業の空洞化が懸念されている。
- ・こうしたなか、生産技術の高度化による技術力や蓄積された経験などの強みを活かし、新たな成長分野への振興を図るとともに、既存産業においても新技術の導入や商品の高度化など、競争力の向上に努め、産業の強靱化を図ることが求められている。



◆ 地球環境問題への対応

- 世界人口の増大と新興国をはじめとした各国の経済成長に伴い、限りある食料や水、エネルギーの確保や地球環境への影響が今後の大きな課題となっている。また、経済活動の活発化に伴うエネルギー消費の増大が、温暖化など地球環境への影響が懸念されている。
- このため、環境負荷を低減する循環型社会の構築に向け、技術力を背景にした省エネルギーの推進や食料自給率の向上、健全な水循環の維持などが求められている。



◆ 情報通信技術の進化など技術革新の進展

- 情報通信技術はこの20~30年で飛躍的に進化したものの一つであり、経済活動や生活環境に大きな変化をもたらしてきた。今後も、高度情報化に向けた技術革新を進め、情報通信を活用した先端技術の育成や交通技術の高度化を図ることが求められている。

◆ 高齢社会への対応

- 高齢人口の比率が高い高齢社会の現在、生産年齢人口の減少に伴う税収減に対して、医療や介護などの社会保障分野への行政負担の増大が懸念されている。
- こうしたなか、平均寿命と健康寿命の差を小さくすることによる社会保障分野への行政負担の抑制効果が期待される。
- 少子高齢化による生産年齢人口の減少によって、今後の社会保障制度を支える人的基盤を維持していくことが厳しい状況への対策が急務である。



● 駅西地域の特性と機能

◆ 世界(日本)における金沢

金沢市は、国内はもとより世界的にもその価値が認められている歴史や伝統、文化、芸能、学術といった魅力を多く有しており、伝統的都市環境と現代的都市環境が融合した交流拠点都市として位置づけられる。今後は、人や産業を呼び込むためにその魅力を活かしながら、北陸経済圏の中核を担う都市としてさらなる発展を目指し、高次都市機能の充実を図る必要がある。

◆ 金沢市における駅西地域

金沢市が今後、北陸経済圏の中核都市として、さらに発展するためには、広域的な高次都市機能をさらに集積させ、拠点化を推進する必要がある。

そのためには、駅東、駅西の両地域が役割分担と連携することで交流を促進し、それぞれの特性や良さを活かしながらまちづくりを進めていく必要がある。

これらを踏まえ、駅西地域においてまちづくりの方向性を定め、現代的な金沢を象徴する地域として、賑わいのあるまちづくりを推進しなければならない。

◆ 駅東、駅西地域の位置づけ・特徴等

金沢市の発展を担う駅東、駅西両地域の役割を明確化するため地域の特徴を整理する。

	駅東地域	駅西地域
地域の位置づけ	“金沢らしさ”の象徴であり、都市全体の核となるエリア ・歴史・文化が重層的に存在 ・伝統と創造が調和したエリア	金沢駅～金沢港にかけて、“新しい金沢”を形成するエリア ・広域都市、高度業務機能が集積 ・現代的な金沢を象徴するエリア
特徴	歴史や文化を体現する地域	産業や業務の広域機能の集積地域
まちづくりの方針	“歴史資産を活かした風格あるまちづくり” ・伝統と現代的都市機能の調和 ・伝統的環境の保存・再生	“未来を見据えたまちづくり” ・活力と賑わい創出、港の整備推進 ・現代的都市機能の一層の集積
地域を象徴する代表的な施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史・文化 金沢城公園、兼六園、惣構、寺院群、金沢21世紀美術館、茶屋街 等 ● 商業 めいてつ・エムザ、近江町市場、香林坊大和、片町きらら 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共公益施設 石川県庁、石川県立中央病院、金沢駅西合同庁舎、石川県地場産業振興センター 等 ● 流通 金沢港、金沢市中央卸売市場、金沢問屋センター 等 ● ビジネス 北國銀行本店、NHK金沢放送局(予定) 等

● 駅西地域の現況

① 土地区画整理事業による業務機能集積・市街地形成

- ・金沢駅西口（現金沢港口）が開設された後、開発が進み、石川県庁の移転等も相まって商業・業務施設の立地や住宅地開発など著しく発展が進んだ金沢でも新しい地域である。
- ・行政、金融、鉄道、医療、港湾・物流等の業務中枢施設や、住居、教育施設等の様々な施設が立地している。
- ・現在も土地区画整理事業による市街地整備が進められている。 写真提供)石川県観光連盟



② 高速交通網の要衝

- ・北陸自動車道の I Cや金沢外環状道路海側幹線が整備され、加賀方面、能登方面、さらには他県からのアクセスに優れ、また、金沢駅と金沢港を結ぶ50m道路など、高速交通網の要衝となっている。
- ・現在、金沢外環状道路海側幹線の最終区間である第Ⅳ区間（大河端町～福久町：L=3.2 km）が事業中であり、交通基盤の充実が図られている。

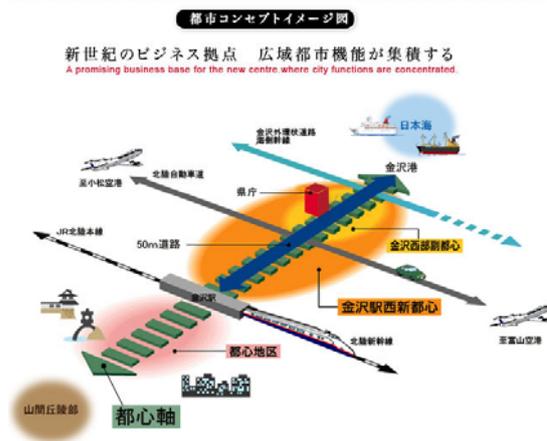


図) 金沢駅西開発協議会HP

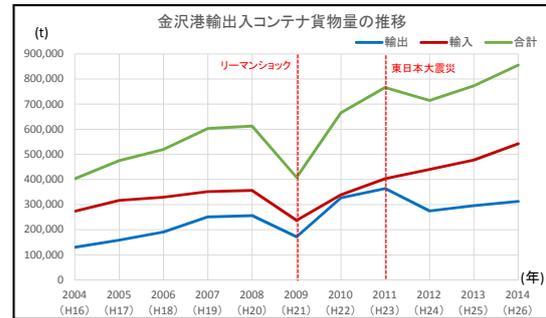
③ 北陸新幹線金沢開業による変化

- ・金沢駅金沢港口（金沢市広岡1丁目）は、商業地の地価上昇率において前年度比17.1%増加（H27.1時点公示地価）で変動率全国1位となっている。また、金沢市内の賃貸オフィスビルの空室率は、17.5%（H25.1～3）→11.2%（H27.10～12）と低下しており、不動産需要が高まっている。
- ・北陸新幹線の利用者数は925万人（開業～H28.3）、前年比は295%（在来特急の実績との比較）と大幅に増加している。また、金沢市の代表的な観光地である兼六園の入園者数は、約308万人（H27年度）、前年度比約152%と来訪者が増大している。
- ・石川県内の有効求人倍率は、1.53（H28.3）と全国有効求人倍率の1.30（H28.3）を上回る結果となっており、宿泊施設やコンベンション対応施設、観光や消費関連を中心に人材不足が懸念されている。

④ 金沢港の港勢拡大

- 金沢港における貨物取扱量は年々増加してきたが、近年は横ばいの状況にある。

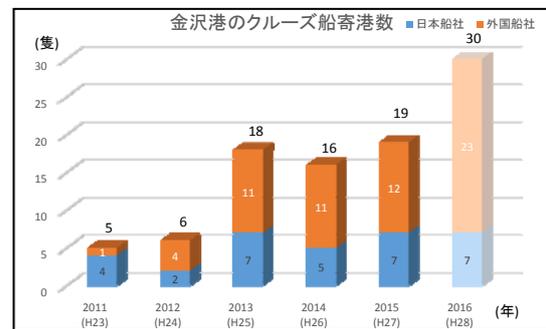
その内訳を確認すると、輸出入コンテナ貨物の取扱量は、リーマンショック（平成21年）や東日本大震災後（平成23年）による一時的な減少を除けば、全体的にここ10年間は増加傾向にあり、約2倍に増加している。



出典) 石川県港湾統計調査等

- 金沢港への上陸者数は、平成24年の2,000人前後から、平成25年には12,000人以上と急増している。クルーズ船の寄港数は、平成20～24年は毎年10隻以下と低迷したが、平成25年以降は増加傾向が続いている。

平成28年度は、日本海定期周遊クルーズを含め30隻のクルーズ船が入港を予定している。



情報提供) (一社) 金沢港振興協会 / 2016. 4. 1

⑤ 石川県立中央病院の整備推進

- 石川県立中央病院は、2017年度中の開院に向け整備が進められており、最新の高度専門医療を県民に幅広く提供する新病院が立地することで、“医の拠点機能のさらなる充実”が推進されている。



新病院の完成予想図) 石川県立中央病院建設推進室HP

【新病院の特徴】

- 救急患者などの受け入れ体制を強化するため、治療室を新設（ハイブリッド手術室1室など）・増床する。
- 手術支援ロボットに対応するため、十分な広さを備えた手術室を整備する。
- 県内で初めて、第一種感染症指定医療機関としての病床を2床整備する。
- 女性専用外来エリアを設置し、来院駐車場を現病院の約1.5倍（900台）確保する。

資料) 新石川県立中央病院の基本設計（要点）より一部抜粋

⑥ 未利用地の点在とまちなみの景観

- 金沢駅から国道8号の間には小規模な未利用地が点在しており、また、金沢港周辺には比較的大きな未利用地が点在している。
- 様々な機能を有する施設立地や開発が進められており、更に駅西新都心として相応しい無電柱化などの景観対策が求められる。

● 駅西地域の課題

時代の潮流や現況等を踏まえ、駅西地域における課題を以下に整理する。

① 更なる賑わいの創出

北陸新幹線全線開通等を見越して、北陸経済圏の中核都市として相応しい強い産業経済の確立、雇用の場の創出、定住の促進、教育の充実を図る。あわせて、住む人、訪ねる人が「暮しやすさ、すごしやすさ」を享受出来る“魅力と活力にあふれるまち”を目指し、地域資源を十分活用した賑わいの創出が必要である。

② 都市機能の更なる集積

北陸経済圏の中核都市を標榜するためにも、広域行政機能、コンベンション等の交流施設、経済、教育、医療・福祉、居住施設等のより一層の集積を図る必要がある。

また、金沢駅周辺のJR関連敷地における都市開発の動向も見据えつつ、その他の未利用地の活用方法についても検討する必要がある。

③ 定住人口増大の受け皿となる顔づくりと体制強化

定住人口増大の受け皿となる企業や高等教育機関の誘致、定住・移住への支援、中央省庁の移転などに対応できる体制を強化する必要がある。

④ 公共交通機関の整備促進

金沢市が策定した「第2次金沢交通戦略」で掲げている新しい交通システムの導入も含めた公共交通の利便性向上を図るとともに、まちなみと調和した歩けるまちの環境整備等により、環境負荷低減への転換と交通弱者にも暮らしやすいまちの推進を図る必要がある。また、金沢駅周辺における駐車場においては、小規模な時間貸し駐車場（土地利用効率の低い平面型）が増加している一方、周辺オフィスへの業務目的や社用車用の駐車場（月極駐車場）が不足している。

⑤ 公共施設の再整備と有効活用

金沢市中央卸売市場、石川県産業展示館は開設から年月が経過し老朽化が進んでおり、今後求められる機能や、これらの施設のあり方を検討し、再整備を図る必要がある。

石川県庁周辺に位置する公共施設などは医療、健康、先端技術分野の施設であることから、集積のメリットを活かして連携を強化し、特定分野推進のゾーン形成が望まれる。

また、金沢港の港湾施設の一部において、整備後35年以上が経過している状況であり、建替え・補修等の対策が必要である。

⑥ 金沢港の活性化、陸・海・空の結節点としての機能強化

金沢港は金沢駅とならんで、金沢駅西都心軸の両極のひとつであるが、北陸新幹線金沢開業で活性化する金沢駅周辺地域に比べ、活性化への課題が残されている。

アジアをはじめグローバルな交流拡大等を推進する上でも、金沢港の機能は益々重要性を増しており、金沢港の機能強化を図るとともに、高速道路・新幹線・空港の交通インフラを結節することで相乗効果の発現と周遊性の向上を図る必要がある。

* 金沢港については、次章において詳述する

● 駅西地域の目指すべき方向性

北陸経済圏を代表する中核都市KANAZAWAの新都心

「時代の潮流」の項で述べた通り、世界そして日本における社会経済情勢を取り巻く環境は大きく変化している。こうした環境下においても、金沢は歴史や伝統、文化、芸能、学術といった魅力を損なうことなく継承してきた都市である。しかしながら、この特性は主に、金沢駅東地域に象徴されるイメージといえる。

金沢市が今後、北陸経済圏を代表する中核都市として発展するためには、更なる広域的な都市機能を集積させる必要がある。しかし、駅東地域は、歴史や文化が重層的に存在し、成熟した都市構造であることから、これ以上の機能を集積させることは難しいと考えられ、新たな都市機能の拡充には金沢駅を挟んだ駅東地域と連携しながら、今なおポテンシャルを有する駅西地域に機能を集積させることが望ましい。

既に駅西地域は、土地区画整理事業によって開発が進み、石川県庁の移転等も相まって商業・業務施設の立地や住宅地開発など、金沢市の中でも著しく発展が進んでいる地域である。また、公共公益施設、物流拠点、オフィスなどの様々な都市施設が集積し、北陸新幹線、北陸自動車道、金沢港などの交通基盤が充実した地域である。

今後の本地域では、地方創生の動きが活発化する時代における確たる役割を担うため、未来を見据えた高次都市機能を有するまちづくりを志向し、これまでの新都心としての側面に加え、駅西に訪れる・楽しむ・住む・働くなどのライフスタイルを確立させるための新たな顔づくりを示す必要がある。

このため、駅西地域全体について現在の土地利用特性を考慮して3つのエリアに分け、それぞれのビジョンを明確化させることにより、新たな駅西地域のまちづくりを進めていくものとする。

そして、このビジョンを実現し新たな顔づくりを推進するため、都心軸の端部である金沢港の活性化と港周辺に人を呼び込み賑わいを創出する機能を充実させるとともに、新しい交通システム導入による都心軸上の新たな人の流れを生み出す動脈を強化するなど、北陸経済圏を代表する中核都市KANAZAWAの新都心の形成を目指すものとする。



● エリア別の方向性と方針

① 金沢駅～国道8号エリアの方向性と方針

【方向性】 ～ 「カレッジ」と「ビジネス」を基軸としたまちづくり ～

【方針】 金沢駅からの近接性を活かしたまちの賑わいを創出

- 更なる業務機能の集積と、専門学校、大学サテライト機能などの知的サービスの充実を図る
- コンベンション、宿泊機能の充実やアフター5対応等の賑わい創出を図る
- 中央省庁の地方移転を意識した整備を図る
- 金沢市中央卸売市場のあり方を検討する

② 県庁周辺エリアの方向性と方針

【方向性】 ～ 「医・職・住・育」のまちづくり ～

【方針】 公共施設等と連携・機能強化を行い、相乗効果を生み出すまちづくりを推進

- 石川県立中央病院やいしかわ総合スポーツセンター等の公共公益施設と連携することにより、健康寿命の延伸等を推進する
- 医療に携る人材を確保・育成するための取り組みを検討する
- 情報通信技術の高度利用により、ITと医療を結合した最新の高度専門医療を発信する
- 定住、移住等の受け皿や制度の充実を図る

③ 金沢港周辺エリアの方向性と方針

【方向性】 ～ 交流と賑わいのある「核の形成」 ～

【方針】 核となる交流拠点施設を整備し、交流と賑わいを促進

- 金沢港と金沢駅をつなぐ新しい交通システムの導入を推進する
- 金沢港及び周辺地区における道路・交通・物流機能の強化を図る
- 金石・大野地区の地域資源や地域イベント等と連携した賑わいづくりを推進する
- 集客を誘導する的確な土地利用と核となる交流拠点施設の整備を図る
- 港の風情を感じるスポットや休憩施設、港湾関連施設等の整備を図る

*金沢港については、次章において詳述する

第3章 金沢港の活性化のために

『第2章 駅西地域全体の活性化のために』を受けて、金沢港周辺のあるべき姿を以下にとりまとめた。

● 金沢港の現状及び活性化に向けた5つの課題

金沢港は、昭和45(1970)年の開港以来、主に物流面における海の玄関口としての役割を担っている。近年はコンテナ貨物の取扱量の増加が見られ、それに対応すべく、御供田埠頭でガントリークレーン等のコンテナ機能の整備・増設等が推進されている。

一方、世界のクルーズ人口は最近10年間で約2倍に増加し、金沢港においてもクルーズ船の寄港数や上陸者数が急増している。特に、中国をはじめとするアジア諸国は経済成長に伴い富裕層が増加しており、今後のクルーズ市場も成長が続くことが見込まれる。

金沢港は、「国際海上コンテナ」と「外航クルーズ」の『日本海側拠点港』として国から選定されている。

こうした金沢港の現状及び将来展望を踏まえ、金沢港の活性化に向けた5つの課題を整理した。

課題① 老朽化・自然災害への対応

- ・各埠頭の岸壁は、大規模災害に備えて耐震化が必要である。
- ・各埠頭の建築物(事務所、倉庫、上屋等)は築35年以上が経過しており、建替え・補修・営繕等の長寿命化対策が必要である。特に主要な港湾機能を担う建築物は、昭和56年に導入された新耐震基準(建築基準法)に基づく防災・減災対策を早急に講じる必要がある。
- ・首都直下型地震等の大規模災害が発生した時に、迅速かつ円滑な復旧・復興を支えるため、金沢港における人命救助、物資の供給や避難等の支援体制の整備が求められる。

表) 各埠頭の建築物(事務所、倉庫、上屋等)の整備年/築年数

埠頭	施設名	整備年/築年数	埠頭	施設名	整備年/築年数
無量寺埠頭	みなと公園	S45年/築45年	戸水埠頭	県営1号上屋	S46年/築44年
	金沢みなと会館	S47年/築43年		金沢港湾合同庁舎	S50年/築40年
	県営穀物サイロ (平成28年3月末で使用停止)	S48年/築42年		金沢港運1号上屋	S50年/築40年
石川県金沢港湾事務所	S45年/築45年	金沢港運2号上屋		S55年/築35年	
戸水埠頭	金沢港運上屋兼倉庫	S45年/築45年	*「整備年/築年数」は、石川県土木部港湾課及び(株)金沢港運へのヒアリングによる		

課題② 物流の活性化

- ・大浜埠頭は大型の貨物船の発着埠頭として水深-13mの岸壁を整備(現在-12mで暫定供用)してきたが、コンテナ貨物の増加や大型クルーズ船の発着による、金沢港利用の多様化に備えた整備が必要である。
- ・戸水埠頭は埠頭面積に限られ、クルーズ船寄港により物流と人流が混在する状況にあり、周辺埠頭とあわせ物流と人流の機能分担による混雑化の解消が急務となっている。
- ・各埠頭の倉庫、上屋等の港湾施設や港湾事業者等の効率的な配置が求められる。
- ・金沢港東部工業用地は未利用地のままとされており企業誘致を進めなければならない。



写真) 大型貨物船が停泊する大浜埠頭



写真) クルーズ停泊状況 (㊦大浜埠頭、㊧戸水埠頭)



課題③ にぎわいの創出・おもてなしの充実

- ・金沢港は物流機能を中心に発展してきたため、一般市民は埠頭での釣りや港フェスタ i n 金沢等のイベントの開催以外に金沢港に來訪することは少なく、観光・交流機能が乏しい状況にある。駅西地域全体の活性化のためには、金沢港の観光・交流機能を強化し、にぎわいの創出を図ることが必要である。
- ・近年増加しているクルーズ船の観光客や見学・送迎の來訪者がより一層楽しめるようなおもてなし機能を充実・強化する必要がある。
- ・クルーズ船専用埠頭の無量寺埠頭の水深が-7.5m であるため、大型化するクルーズ船の受入れができない状況にあることから、水深-10m 化を早急に実現する必要がある。



写真) 石川らしい和装(加賀友禪)でのお出迎え



写真) 大勢の地域住民によるお見送り

課題④ 交通・歩行者動線の確保

- ・金沢港を観光・交流の拠点として再生するには、複合的な集客機能を導入・強化しながら、これと連携して金沢港と金沢駅を結ぶ交通アクセスを強化する必要がある。
- ・金沢港への交通アクセスは、路線バスの運行本数が平日において1時間1本以下と少ないこともあり、自家用車利用が主体となっている。新幹線やクルーズ船の観光客、市民・県民等が安全・快適に利用できる新しい交通システム及び自家用車駐車場を整備する必要がある。
- ・あわせて、近くに自動車の往来が激しい県道等が通っていることから、來訪者が港周辺を安全・快適に移動できる歩行者動線を確保する必要がある。

課題⑤ みなとの景観向上

- ・金沢港の外観は物流・港湾の業務機能が中心であり、殺風景なことから、訪れたいと感じるような景観とは言えない。特に老朽化した港湾施設や臨港線の電線類は、景観面で大きな阻害要因になっている。
- ・一方で金沢港周辺は、現行の景観計画で定められる景観計画区域に含まれていない。将来的に金沢港の景観を、観光・交流の拠点として魅力的な“みなと景観”に再生するには、景観阻害要因を改善しながら、“みなと景観”の規制・誘導を推進する必要がある。



図) 景観まちづくりの景観形成区域指定図

● 金沢港の活性化に向けた基本方針

先述した5つの課題を基に、これらを克服すべく金沢港の活性化を見据え、海外に拓く“未来志向”と金沢らしさを醸成する“日本海側拠点港”としての整備も見据えた基本方針を以下に設定した。

方針① “日本海側拠点港”の機能を果たすための埠頭の整備

- ・無量寺埠頭は、「水深-10m化及び岸壁の耐震化」、「老朽化した上屋等の防災・減災対策の推進」を進めるとともに、にぎわいの創出を図るため「クルーズ船の受入れ機能強化」、「金沢みなと会館の機能強化」及び「みなとの景観向上」を推進する。
- ・戸水埠頭と大浜埠頭は、大型の貨物船とクルーズ船の発着埠頭に位置づけて、人流と物流の動線の分離に配慮しながら必要な整備を推進する。
- ・御供田埠頭、石油埠頭と五郎島埠頭は、物流主体の埠頭に位置づけ、コンテナ、石油、原木等の物流機能ゾーンとして必要な整備を推進する。
- ・荷役作業等の効率化を図るためにも、港湾事業者等の移転を検討する。

方針② 『未来志向のみなと・まちづくり』による新たな魅力の創出

- ・金沢港周辺のまちづくりは、「海の広さ、大きさ、無限に広がる」というイメージから、“金沢港の未来にわたって、人・物の交流が無限に拡大する”ことを願い、新時代を予感させるような、『未来志向のみなと・まちづくり』を基本方針とする。そして、未来を担う『若者、子供が主体的に学び・楽しめるような機能や空間』づくりを構想する。
- ・金沢港周辺は、海の玄関口として海外との物流及び観光交流が促進されるよう、多機能が集積する拠点として整備することで、新たな魅力を創出することを目指す。
- ・人・物の交流を促進させるための交通機能の強化を推進する。

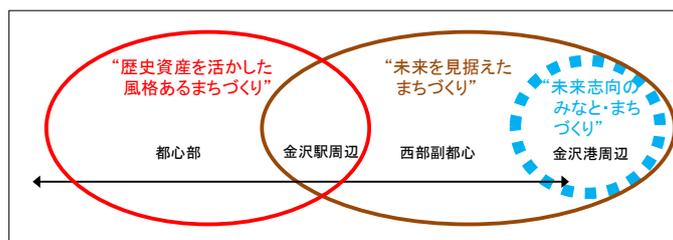
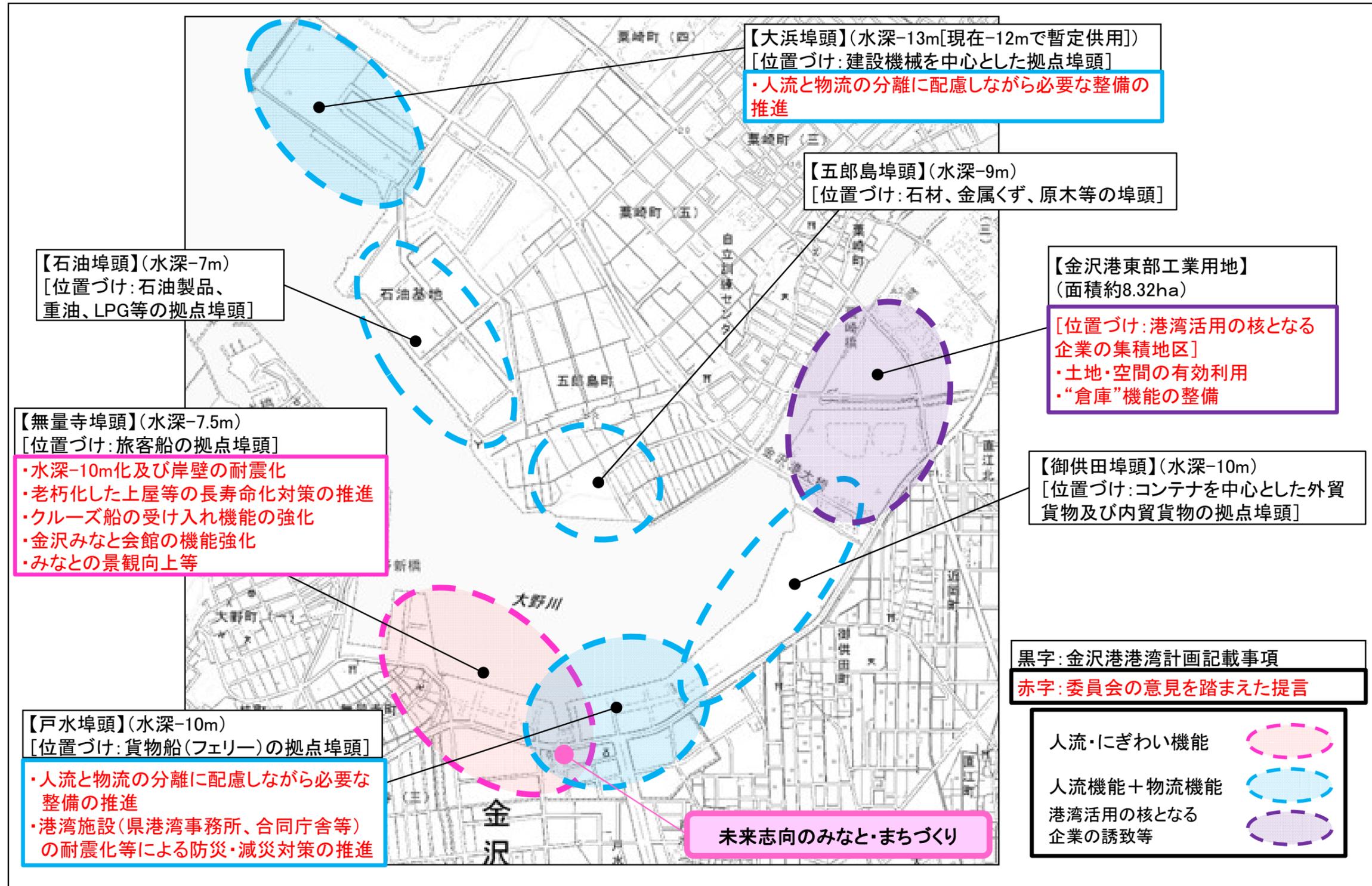


図) 都心軸の形成イメージ

方針③ 港湾活用の核となる企業の誘致

- ・金沢港東部工業用地は金沢港に隣接しており、原材料や製品の輸送に金沢港を活用する企業に適している。特に近年、金沢港のコンテナ貨物量は増加傾向が続く中でガントリークレーンが整備・増設され、コンテナ貨物輸送の利便性が高まっている。
- ・このような状況の下、金沢港東部工業用地の未利用地を有効活用して、取扱貨物量の拡大や国際競争力の強化につながるよう、港湾活用型企业等の立地を促進し、周辺一体の活性化につなげる。

◆ 金沢港の各埠頭及び周辺の活性化・整備を見据えた基本方針図



* 「金沢港の各埠頭及び周辺の活性化・整備を見据えた基本方針」のとりまとめに際しては、『金沢港港湾計画』の位置づけを踏まえつつ、『金沢駅西開発協議会 金沢港活性化委員会』で検討を重ねた。

図) 「金沢港の各埠頭及び周辺の活性化・整備を見据えた基本方針」

●金沢港活性化ビジョンの概要(背景と課題、基本方針及び”3本の矢構想”の関係性)

「金沢港を取巻く背景」、「金沢港の活性化に向けた課題」及び「金沢港の活性化に向けた基本方針」を踏まえた「金沢港活性化ビジョン “3本の矢構想”」の概要は以下の通りである。

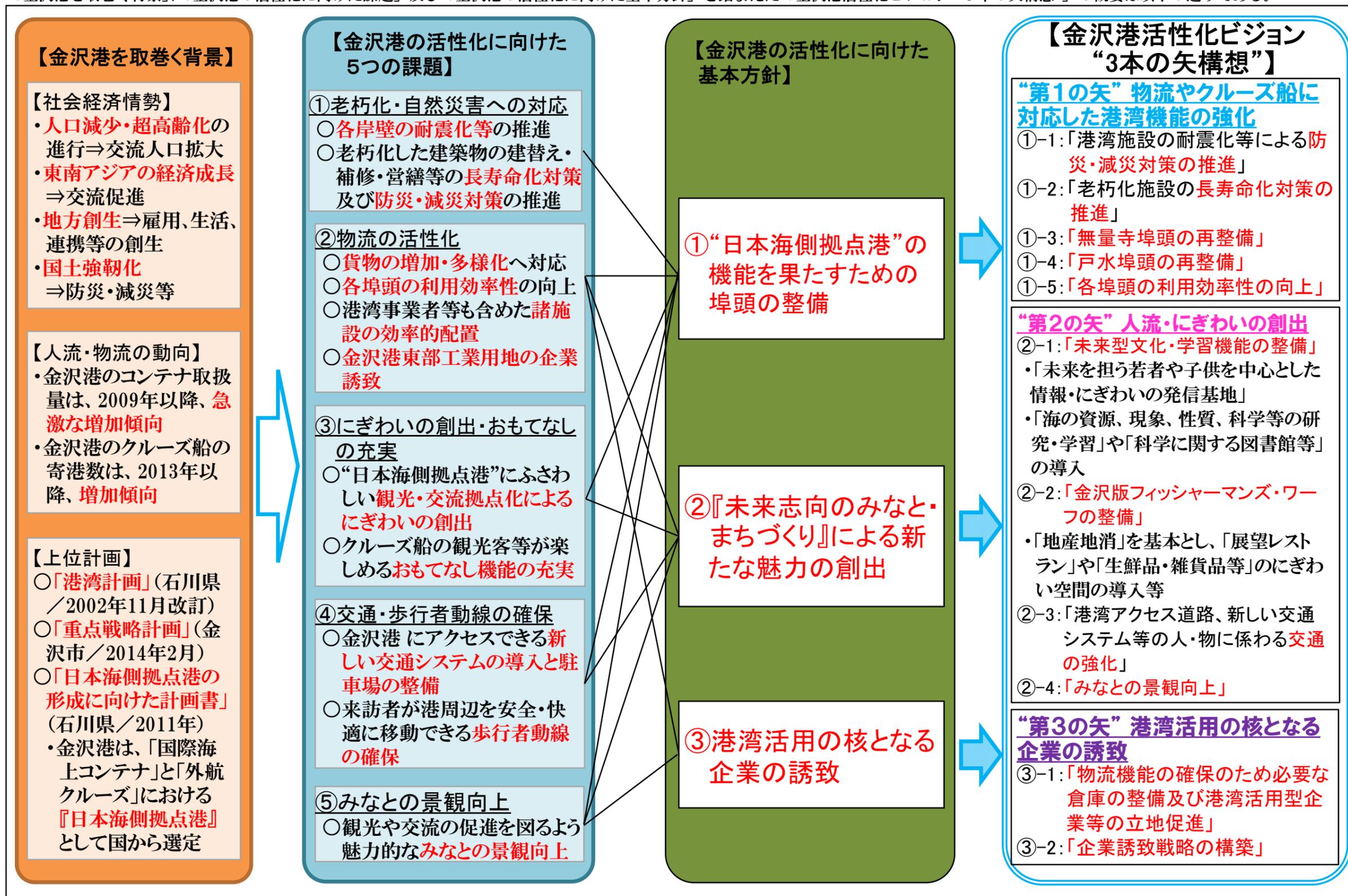
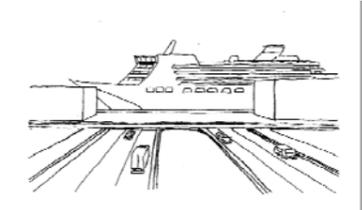
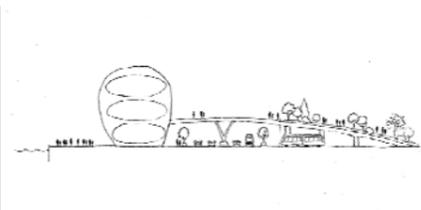
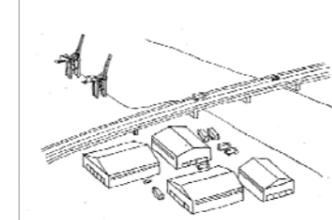


図) 金沢港活性化ビジョン及び施策の概要

● 金沢港活性化ビジョン”3本の矢構想”（施策体系）

金沢港を核として人・物の交流が広がり産業の投資や雇用を呼び込めるような好循環を生み出すことを目指して、金沢港活性化ビジョン “3本の矢構想”、各施策及び具体的内容を以下の通り設定した。

【“3本の矢構想”とイメージ】	【“3本の矢構想”の各施策】	【各施策の具体的内容】
<p>“第1の矢” ① 物流やクルーズ船に対応した港湾機能の強化</p>  <p>戸水埠頭における無電柱化と景観の向上イメージ案</p>	<p>①-1: 「港湾施設の耐震化等による防災・減災対策の推進」</p> <p>①-2: 「老朽化施設の長寿命化対策の推進」</p> <p>①-3: 「無量寺埠頭の再整備」</p> <p>①-4: 「戸水埠頭の再整備」</p> <p>①-5: 「各埠頭の利用効率性の向上」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各岸壁の耐震化及びみなと会館、県港湾事務所、合同庁舎、倉庫等を対象にした防災・減災対策の推進 建築物の建替え・補修・営繕等の長寿命化対策の推進 水深-10m化・耐震化及び再整備／老朽化した上屋等の再整備／クルーズ船の受け入れ機能の強化 金沢みなと会館の機能強化／みなとの景観向上 等 人流と物流の分離／港湾施設（県港湾施設、合同庁舎等）の再整備及び土地の有効利用 老朽化した上屋等の再整備と景観向上 等 大浜埠頭における大型貨物船、クルーズ船の発着に必要な機能の検討 港湾事業者等の移転の検討 等
<p>“第2の矢” ② 人流・にぎわいの創出</p>  <p>無量寺埠頭周辺の断面イメージ案</p>	<p>②-1: 「未来型文化・学習機能の整備」</p> <p>②-2: 「金沢版フィッシャーマンズ・ワーフの整備」</p> <p>②-3: 「港湾アクセス道路、新しい交通システム等の人・物に係わる交通の強化」</p> <p>②-4: 「みなとの景観向上」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 未来を担う若者や子供を中心とした情報・にぎわいの発信基地となるような創造性を高める機能の整備 機能面では「海の資源、現象、性質、科学等の研究・学習」や「科学に関する図書館」等の導入、運営については「産学官の連携」の推進 「地産地消」を基本とし、「展望レストラン」や「生鮮品・雑貨品等」が「新鮮で手頃な価格」で設定されたにぎわいを演出する空間の形成 等 金沢港と金沢駅を結ぶ新しい交通システム等の公共交通の充実 公園と埠頭の一体的利用による歩行者動線の確保 自動車やバス等の交通動線と歩行者動線の分離に配慮した大規模駐車場の整備 無量寺埠頭周辺の景観の検討 景観誘導策として「景観計画に基づく規制・誘導」や「自主的な協定づくり」の検討 「老朽化した港湾施設の更新」や「港周辺道路の電線類地中化」による景観阻害要因の改善
<p>“第3の矢” ③ 港湾活用の核となる企業の誘致</p>  <p>金沢港東部工業用地における港湾活用型企業の誘致イメージ案</p>	<p>③-1: 「物流機能の確保のため必要な倉庫の整備及び港湾活用型企业等の立地促進」</p> <p>③-2: 「企業誘致戦略の構築」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業にとって、港に隣接する倉庫は、貨物の保管や荷役作業に必要不可欠 倉庫の建設には、定期借地制度等を活用して、倉庫を利用したい企業の共同出資による“共同倉庫”として整備を推進 港湾活用型企业の金沢港東部工業用地への立地促進 民間企業による公有地の活用や公共施設の再整備が促進されるような誘導策の実施

第4章 ビジョンの実現に向けて

駅西地域におけるビジョン実現のため、各エリアにおいて以下の4事業を優先的に検討したい。

特に、“金沢港無量寺埠頭及びその周辺の再整備”と“両極をつなぐための新しい交通システムの導入”の2大事業を最優先して整備する必要があると考える。

① 金沢駅～国道8号エリア ⇒ 金沢市中央卸売市場のあり方を検討する

金沢市中央卸売市場は8.6haの面積を有し、隣接地には関連業者の倉庫や事務所等も集積するなど駅西地域における核施設のひとつである。同市場の取扱量は漸減傾向が続いているが、北陸新幹線金沢開業後の交流人口の拡大による影響が期待されるどころである。

また、市場見学会、競り体験会、料理教室や場外商店街とのイベントなど一般向けのPRを行い、賑わい創出にも寄与している。

しかし、昭和41年の開設から年月が経過して老朽化が進んでいる。本年は市場開設50周年にあたることもあり、北陸を代表する市場としてのあり方を検討し、駅西地域の新たな魅力への寄与に期待したい。



写真) 金沢市中央卸売市場HP

② 県庁周辺エリア ⇒ 最新の高度専門医療を集積・発信する

平成29年度中の完成を目指す新石川県立中央病院は、高度専門病院として県民の健康・福祉の向上を目指していくこととなる。

同病院の近隣には、医療関連施設や石川県地場産業振興センター、石川県工業試験場が位置するとともに、同病院の西側の地域にはいしかわ総合スポーツセンター、西部緑地公園陸上競技場など健康関連施設が位置しており、医療、健康、先端技術分野に関する施設の集積地と言える。

このメリットを活用し、生活習慣病予防や健康寿命の延伸などの健康福祉施策の推進や、IT技術と医療技術の連携による技術開発の推進など、医療と健康の一大ゾーン形成の推進を期待したい。

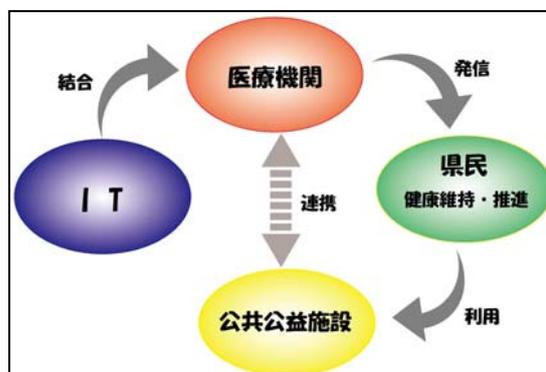


図) 集積・発信のイメージ図

③ 金沢港周辺エリア

金沢港無量寺埠頭及びその周辺の再整備

第3章で述べた通り、金沢港の活性化のためには“3本の矢構想”を推進して行かなければならない。特に、駅西地域の端部に位置する金沢港の人流・賑わい創出は、駅西地域全体の活性化に大きく寄与する課題であり、優先的に取り組んで行く必要がある。

このことから、金沢港活性化の「リーディングプロジェクト」として、人流・にぎわい創出を図る都市機能の整備である「金沢港無量寺埠頭及びその周辺の再整備」を挙げる。

無量寺埠頭の空閑地の活用、金沢みなと会館の再整備、金沢みなと公園の再整備及び無量寺埠頭との一体的利用等の推進が必要であると考え。特に、金沢みなと会館の再整備は、集客複合施設化による「未来志向のみなと・まちづくり」の具現化として重要なプロジェクトである。

《金沢港活性化のリーディングプロジェクト》

⇒「金沢港無量寺埠頭及びその周辺の再整備」

〈特に重要なプロジェクト〉

- ◎無量寺埠頭の水深-10m化、岸壁の耐震化及び再整備
- ◎金沢みなと会館の再整備（集客複合施設化）

◎金沢みなと会館の再整備（集客複合施設化）イメージ

- 人流・にぎわい創出の核となる文化・学習の交流拠点機能（石川の子供の創造性を高める施設）の整備
 - ・“未来志向”を基本方針として、未来を担う子供や若者を中心にした情報・にぎわいの発信基地となるような創造性を高める機能（子供科学館など）の整備
 - ・県内12大学と連携した施設運営
- “金沢版フィッシャーメンズ・ワーフ（海の「道の駅」）”の整備
 - ・地産地消を基本とした「展望レストラン」,「生鮮品・雑貨品等」や「観光案内」等の複合機能の整備
- C I Q機能（税関、入国管理、検疫等）の強化や会議室及び港湾事務所等の整備による複合化の推進

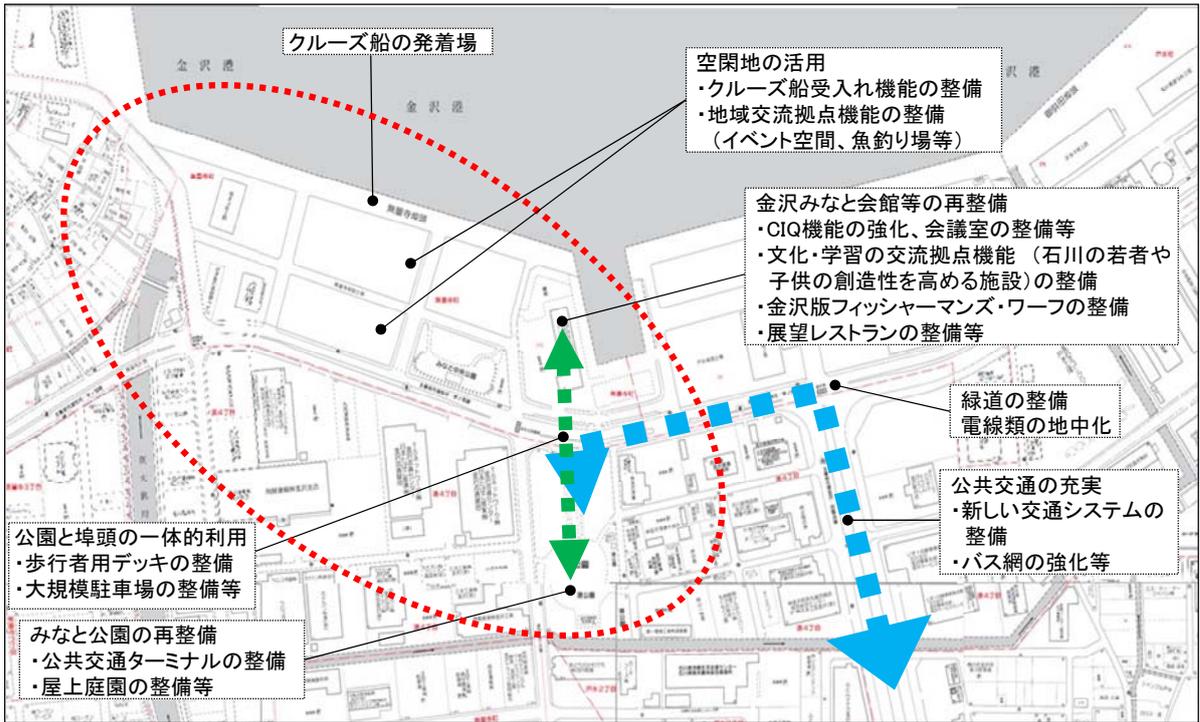


図) 無量寺埠頭周辺の土地利用構想案



金沢みなと会館

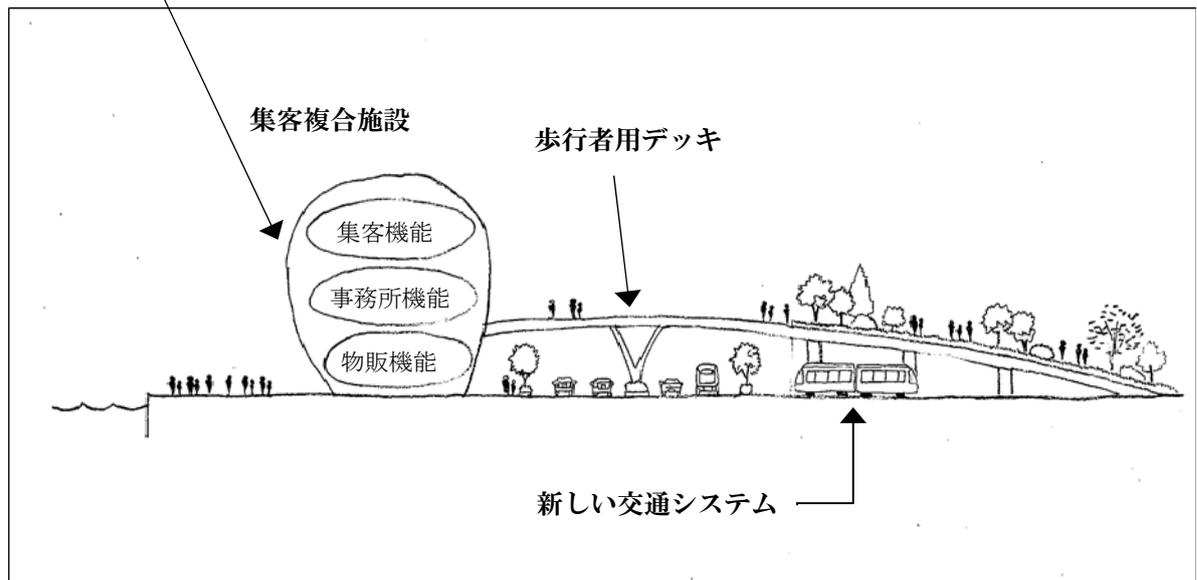


図) 無量寺埠頭周辺の断面イメージ案

④ 都心軸(50m道路)

金沢駅と金沢港を結ぶ新しい交通システムを導入する

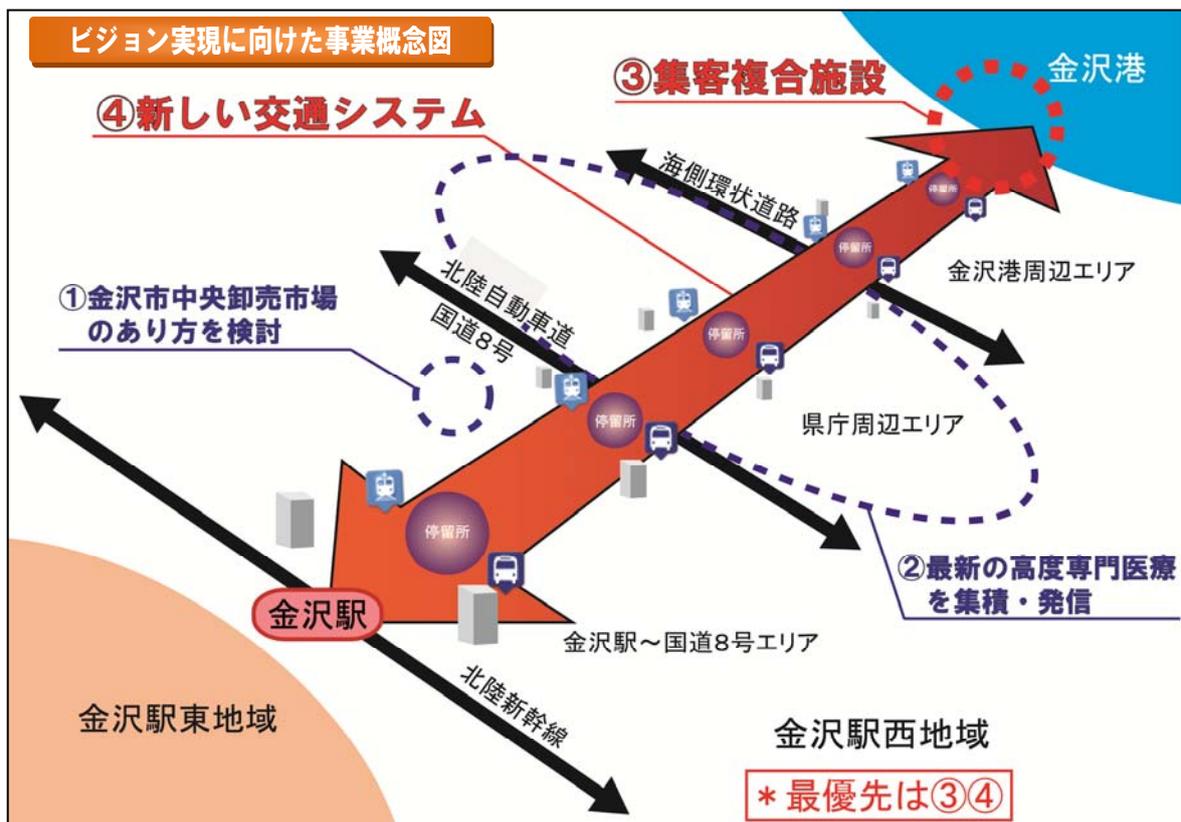
駅西地域に人を呼び込み賑わいを創出するためには、都心軸の端部である金沢駅と金沢港に集客施設が整備されていることが必要であり、その意味でも、前述した金沢港無量寺埠頭周辺の再整備として集客複合施設の実現が重要となる。

加えて、都心軸に新しい交通システムを導入することで、来街者や地域住民、今後のまちづくりで重要となる交通弱者への対策も含めて、駅西に“訪れ楽しむ・住む・働く”新たなライフスタイルの確立を図ることができ、そのことが50m道路沿線、駅西地域の土地利用を更に促進させることも期待できる。

また、新しい交通システムの導入に併せて、結節点となる各所に停留所が整備されることで、その周辺の行政、企業、飲食、商業、住居の各施設などの新たな活気が生じることも期待できる。

金沢市では、平成27年度に策定した“第2次金沢交通戦略”において、新しい交通システムの導入も含めて公共交通の利便性向上を掲げており、駅西地域の都心軸において新しい交通システムを導入することは正にこうした戦略とも符合するものであることから、今後も、その実現に向けた取り組みを当協議会としても検討していきたい。

4事業の実現に向けては、今後、当協議会において検討委員会や先進事例視察等を通じて、具体的に提案していきたい。



ビジョン策定にかかる委員会活動歴

開催日	委員会	内容	出席者	会場
H26.6.18	金沢港活性化委員会	今後の委員会活動について	13名	金沢商工会議所会館
H26.7.8	駅西都心軸活性化委員会	今後の委員会活動について	15名	金沢商工会議所会館
H26.7.28	駅西都心軸活性化委員会打合会	今後の委員会活動について	5名	金沢商工会議所会館
H26.8.4	合同委員会	両委員会の進捗状況について	20名	ホテル日航金沢
H26.8.26	金沢港活性化委員会	金沢港の今後のありかたについて	11名	金沢商工会議所会館
H26.9.29	駅西都心軸活性化委員会	駅西都心軸の活性化策について	15名	金沢商工会議所会館
H26.10.20	駅西都心軸活性化委員会打合会	今後の委員会活動について	6名	金沢商工会議所会館
H26.10.28	金沢港活性化委員会	金沢港周辺の土地利用策について ゲスト 大和ハウス工業㈱金沢支店 支店長 橋本 好哲 氏	16名	金沢みなと会館
H26.12.1	駅西都心軸活性化委員会	駅西都心軸の活性化策について	13名	金沢商工会議所会館
H26.12.12	金沢港活性化委員会打合会	今後の進め方について	6名	金沢商工会議所会館
H26.12.18	金沢港活性化委員会	金沢港周辺の土地利用策について ゲスト 石川県商工労働部 参事 大霜 祥栄 氏 金沢市都市政策局企画調整課課長補佐 兼交流拠点都市推進室長 新保 博之 氏	15名	金沢みなと会館
H27.2.2	金沢港活性化委員会	金沢港周辺の土地利用策について ゲスト 石川県商工労働部 港湾活用推進室長 山本 樹 氏	13名	金沢商工会議所会館
H27.2.10	駅西都心軸活性化委員会打合会	これまでの検討内容、今後の委員会活動について	6名	金沢商工会議所会館
H27.3.19	駅西都心軸活性化委員会	駅西都心軸の活性化策について	14名	金沢商工会議所会館
H27.4.30	金沢港活性化委員会正副委員長会議	今後の委員会活動について	10名	金沢商工会議所会館
H27.6.15	金沢港活性化委員会	金沢港の現状と課題、ビジョン策定の進め方について	17名	金沢商工会議所会館
H27.7.2	駅西都心軸活性化委員会	前回の検討内容について、今後の進め方について	15名	金沢商工会議所会館
H27.8.5	金沢港活性化委員会	金沢港の現状と課題について	16名	金沢商工会議所会館
H27.8.11	駅西都心軸活性化委員会	前回の検討内容について、駅西都心軸の活性化について	18名	金沢商工会議所会館
H27.9.4	駅西都心軸活性化委員会打合会	前回のまとめ、次回の協議事項について	9名	金沢商工会議所会館
H27.9.29	金沢港活性化委員会	人流・にぎわい創出に向けた検討について	12名	金沢商工会議所会館
H27.10.28	駅西都心軸活性化委員会	ビジョン（案）について	19名	金沢ニューグランドホテル
H27.11.6	金沢港活性化委員会	ビジョン（案）について	13名	金沢みなと会館
H27.11.10	駅西都心軸活性化委員会打合会	ビジョン（案）について	10名	金沢商工会議所会館
H28.1.25	合同委員会	ビジョン（案）について	30名	金沢ニューグランドホテル

委員会名簿 (順不同・敬称略)

平成28年3月31日現在

◆ 駅西都心軸活性化委員会

担当副会長	瀬戸	和夫	第一電機工業(株) 社長
委員長	新家	久司	(株)国土開発センター 社長
副委員長	岡田	茂樹	金沢駅西まちづくりの会 会長
	辻子	義則	金沢ターミナル開発(株) 社長
	富久尾	佳枝	金沢セメント商事(株) 社長
委員	加藤	敏彦	北陸鉄道(株) 社長
	曾根	徹	(株)曾根商事 社長
	古田	善也	(株)日本政策投資銀行北陸支店 支店長
	前田	純一	(株)北國銀行 専務取締役
	村本	道廣	(株)道洋行 社長
	八木	圭一朗	(株)ヤギコーポレーション 社長
	山越	健司	西日本旅客鉄道(株)金沢支社 副支社長
	吉田	大	三菱地所プロパティマネジメント(株)金沢営業所 所長
	米澤	佳人	(株)アール・アイ・エー金沢支社 支社長
オブザーバー	田原	宏之	(有)タハラ 社長

◆ 金沢港活性化委員会

担当副会長	鶴山	庄市	加賀建設(株) 社長
委員長	玉田	善明	玉田工業(株) 社長
副委員長	高桑	幸一	(株)キョー・エイ 社長
委員	鍛冶	多香子	小松ウォールアイティ(株) 社長
	操川	由一	城西運輸機工(株) 会長
	通善	一洋	(株)通善商店 社長
	福田	涼一	(一社)金沢港振興協会 専務理事
	堀岡	修次	(株)金沢港運 社長
	三谷	充	三谷産業(株) 会長
	山上	智之	(株)ホクチン 社長